

第31回 東北真菌懇話会

(日本医真菌学会支部会)

日 時：2019年6月23日（日） 9:30~14:45

会 場：仙台サンプラザホテル 1階「ローズの間」

宮城県仙台市宮城野区榴岡5丁目11番1号

☎022-257-3333

ご参加の先生方へ

今後の各種案内に必要ですので、当日受付にて必ずご記帳下さい。

当日参加費として¥1,000 お支払い下さい。

演題をご発表の先生方へ

- a.スライドは1面です。枚数に制限はありませんが、発表時間内に終わるようご留意下さい。
- b.発表形式はwindows版パワーポイントによるPCプレゼンテーションです。
1面映写、動画には対応しておりません。Mac版PC、スライド使用の先生は、事前に事務局までご一報下さい。
- c.発表時間はすべて1題7分としておりますが、厳密なものではありません。
討論時間は1題3分を見込んでおりますが、本会は堅苦しい学会ではありませんので、活発な御討論をお願いします。初步的な質問でも学習の機会とお考えいただいて、ご遠慮なく御発言いただきたいと存じます。

主 催：東北真菌懇話会

共 催：科研製薬株式会社／日本医真菌学会

ご挨拶

令和の御代が幕を開けました。第31回の本会が令和最初の東北真菌懇話会になります。昭和、平成、令和とみちのくピルツ同好会から東北真菌懇話会への歴史がまた受け継がれていきます。

今回の特別講演は松田哲男先生（松田ひふ科医院）に「九州で記載された皮膚真菌症～九州真菌懇話会から～」というタイトルでお話をいただきます。東北では稀と考えられる真菌症についても知識を深める絶好の機会です。国の内外を問わず、人の往来が盛んな時代ですので、意外な真菌症も知つておく必要があるでしょう。

新年度になって新しい皮膚科専攻医（新人）が入局してきました。指導して思うのは爪の真菌検査の難しさです。どこまで削って、どう判定するか、新人には検体採取も判定も難しいことがわかります。これができればまずは皮膚科医の第一関門通過でしょう。皮膚科研修の到達レベルを知るのに「皮膚科医ピルツランキング」いうのがあれば、研修のモチベーションも上がるかなとおもっております。今回の皮膚真菌症 mini ハンズオンセミナーは「コナンもびっくり真菌‘検査’入門：明日からできる簡易検査法で貴方も名探偵」というタイトルで開催します。ベテランの先生はもちろん、若手の先生も皮膚科医ピルツランキングをさらにアップさせていただければ幸いです。

昨年12月には東北大で行われた基礎系・内科系の先生を中心の東北医真菌研究会に参加しました。私が聞いても面白く、東北医真菌研究会のレベルの高さと活発さに刺激を受けました。一方で、皮膚科医が多い東北真菌懇話会ですが、今回も多数の演題をご応募いただきました。皮膚科学会ではピルツ専門家は絶滅危惧といわれますが、皆様方それが皮膚真菌症の第一線で活躍していらっしゃると思います。仙台での開催とは言え蒸し暑い日曜日になりそうです。気軽な研究会ですので、ぜひ、軽装でお越しください。ご参加をお待ちしております。

令和元年6月

東北真菌懇話会会長

出光 俊郎

昭和はにおいの時代であった・・・・。ピルツもにおいの時代でした。足趾の爪を削ると白癬の場合には特有のにおいがするという話もある。見て触って嗅いで見る診断なのかもしれない。昔、国立栃木病院の関口先生のところに行ったら斜面培地やコルベンに真菌が多数生えており、うわっと思うにおいがした。

ハンズオンセミナー

皮膚科医のピルツランキングを設けるはどうだろうか？爪白癬の診断は新人には難しい、他人の足趾の爪を思いきって削るのは躊躇する気持ちはわかる。爪白癬の診断ができるようになったら新人のピルツランキングがあがる。毛髪に寄生する真菌要素の判定も・・毛髪のみかた
令和の時代は？？？

急増する移民や外国人労働者・・・やはり絶滅した菌種がみつかるかもしれない。

第 31 回 例 会 プ ロ グ ラ ム

9:20~9:30	製 品 紹 介	科研製薬株式会社
9:30~9:40	開 会 挨 捂	東北真菌懇話会 会長 出光 俊郎
9:40~11:00	<一般演題1>	

1. 2019 年春に盛岡市で流行した柔道部関係者の体部白癬

○佐藤俊樹¹⁾

1)盛岡市 さとう皮膚科クリニック

症例 1、2 は 15 歳男、盛岡 C 高校柔道部 1 年。症例 3 は同 2 年。症例 4 は盛岡 S 高校柔道部 3 年。症例 5 は 34 歳男・警察官、C 高校柔道部 O B で母校の指導を行なった。いずれも顔面、頸部あるいは上肢の露出部に発症。2019 年 4 月および 5 月に集中的に発生。

2. ラブコナゾール内服で治療が完遂できた爪白癬の 1 例

○佐藤俊樹¹⁾

1)盛岡市 さとう皮膚科クリニック

78 歳男。64 歳時に両第 1 趾爪白癬に対してテルビナфин内服で治療したが γ -GTP が 119IU/l から 3 か月で 286IU/l に上昇し中止。ラブコナゾール内服を 3 か月試みたところ γ -GTP は 62 から 120 まで上昇したが、内服は完遂、著明な改善をみた。

3. 当院におけるルリコナゾール 5% 外用液およびエフィナコナゾール 10% 外用液の長期使用経験および治療効果の検討

○井上剛¹⁾、佐藤俊樹²⁾、天野博雄¹⁾

1)岩手医科大学皮膚科 2)盛岡市 さとう皮膚科クリニック

手足爪白癬患者 89 例にルリコナゾール 5% 外用液とエフィナコナゾール 10% 外用液を使用し長期治療効果を検討した。対象は感染面積 50% 以上の重症例が約 7 割であった。罹患している爪甲の厚さおよび混濁面積改善率を経時的に測定した。

4. あきた病院（秋田神経難病医療センター）での爪白癬の菌種同定状況

○牧伸樹¹⁾、前田龍郎²⁾、原田和俊²⁾

1)国立病院機構あきた病院皮膚科 2)東京医科大学皮膚科

第30回東北真菌懇話会ハンズオンセミナーに参加後、当院ではマイコセル培地で真菌培養を行なっている。爪白癬52検体中14検体(27%)で発育あり。PCR法で18検体を解析し、15検体で菌種を同定 [*Trichophyton rubrum* 8、*T.mentagrophytes(T.interdigitale)* 7]。

5. 汗疱状手白癬と手爪白癬の1例

○新澤みどり¹⁾

1)長野市 にいざわ皮ふ科

症例：25歳男性。3年前から右手掌に皮むけと小水疱を繰り返し、前医では汗疱と診断されていた。右手掌に小水疱と小環状落屑が散在。5指爪の遠位30%が白濁、いずれも鏡検で糸状菌(+)。両足白癬も合併。ラミシール®内服4か月と抗真菌剤外用で軽快。当院では5年間に足白癬が5,000例に対し手白癬は33例(0.7%)で、うち小水疱を伴ったのは6例であった。

6. 広範囲体部白癬のインド人2例とスリランカ人1例

○加倉井真樹¹⁾、原田和俊²⁾、梅本尚可³⁾、出光俊郎³⁾

1)下妻市 加倉井皮膚科クリニック 2)東京医科大学皮膚科

3)自治医科大学さいたま医療センター皮膚科

19歳女、31歳男、インド人。36歳女、スリランカ人。陰股部、腋窩などに紅斑多発。3例ともKOH鏡検で菌糸陽性。1例目は分子生物学的検査の結果、*T.mentagrophytes*と診断。入浴や剃毛などの生活習慣の違いにより紅斑が広範囲に多発したと考えた。

7. 皮膚カンジダ症 50 年間の推移

○笠井達也¹⁾

1)多賀城市 笠井皮膚科

国立仙台病院皮膚科の 1968 年以降 30 年間とその後開業 20 年の計 50 年の推移を病型別に報告。1970 年代前半は年間 200 例を越えて、真菌症の 4 割前後を占めていたが、その後次第に減少。殊に最近は極端に減少した。乳児寄生菌性紅斑で最も極端である。

8. 手指に生じた fungal melanonychia の 1 例

○原田和俊¹⁾ ²⁾、前田龍郎¹⁾、比留間淳一郎¹⁾、坪井良治¹⁾

1)東京医科大学皮膚科 2)蕨市立病院皮膚科

43 歳、男性。数年前から手指爪甲が黒色調を呈していた。鏡検で糸状菌を認め、遺伝子検索では *Trubrum* と同定。培養では暗緑色のコロニーを形成し、DNA は *Cladosporium* の遺伝子配列と一致。テルビナフィン内服で爪甲の色素沈着は消失した。

11:00~11:45

皮膚真菌症 mini ハンズオンセミナー

「コナンもびっくり真菌 ‘検査’ 入門 :

明日からできる簡易検査法で貴方も名探偵」

講 師：あいおい皮膚科クリニック 院長 角谷 廣幸 先生

隣室（パールの間）にて実技を交えて解説します。

同時に会場後部に金沢医大皮膚科学教室から御厚意で供与いただいた
スライドカルチャー標本を展示します。ぜひ、ご覧下さい。

・・・・・休憩 (11:45~12:00) ・・・・・

12:00~13:00

ランチョンセミナー

座長：自治医科大学附属さいたま医療センター 出光 俊郎

「九州で記載された皮膚真菌症—九州真菌懇話会から」

演者：松田ひふ科医院 院長 松田 哲男 先生

13:00~14:40

<一般演題2>

9. *Trichophyton verrucosum*による体部白癬の2例

○鈴木長男¹⁾、安澤数史²⁾、望月隆²⁾

1)横手市 すずき皮膚科クリニック 2)金沢医科大学皮膚科

症例1：20歳、女性。初診1か月前に北海道で乳牛の世話をした。2週間前から上口唇に皮疹が生じ初診。症例2：18歳、女性。県南の高原牧場で牛の世話をして右頬部に皮疹が生じて初診。両者とも皮疹からの直接鏡検陽性。PCR-RFLP法で *Trichophyton verrucosum*と判定された。

10. 白癬の2例

○角田孝彦¹⁾、佐藤文子¹⁾

1)山形市立病院済生館皮膚科

症例1：51歳男。左手背内側に乾燥した紅斑。足白癬なし。前医でステロイド外用していた。症例2：80歳男。糖尿病あり。くび、手背、臀裂、陰股、足背に紅斑、手足爪に白濁あり。2例とも真菌検鏡陽性。真菌培養で中央に隆起ある白いコロニー。

11. カンジダ症の2例

○角田孝彦¹⁾、佐藤文子¹⁾

1)山形市立病院済生館皮膚科

症例1：81歳女。約3年前から下口唇に白い線とびらん。薬による扁平苔癬か？薬をかえてもよくならず。ここ2、3年エキザルベを外用していた。症例2：75歳女。足の指間に白い浸軟。ダンスをする。2例とも真菌検鏡でカンジダ。抗真菌剤外用で軽快した。

12. 診断に難渋した頭部白癬の2例

○竹下雅子¹⁾⁽²⁾、松本崇直¹⁾、高澤摩耶¹⁾、梅本尚可¹⁾、川瀬正昭¹⁾、山田朋子¹⁾⁽²⁾、出光俊郎¹⁾

1)自治医科大学附属さいたま医療センター皮膚科、2)JCHOさいたま北部医療センター

症例1：75歳女。頭部有痛性丘疹で初診。真菌鏡検、培養陰性。2回目真菌鏡検陽性、組織培養で *Trichophyton rubrum* 分離。症例2：41歳女。犬2匹飼育。脱毛斑で初診。真菌鏡検陰性、培養で *Microsporum canis* 分離。

13. 再発をきたした固定型スポットリコーシスの1例～治療中止のタイミングについての考察～

○藤井鷹矢¹⁾、川瀬正昭¹⁾、山田真嗣¹⁾、加倉井真樹¹⁾、梅本尚可¹⁾、中村孝伸¹⁾、出光俊郎¹⁾、前田龍郎²⁾、原田和俊²⁾

1)自治医科大学附属さいたま医療センター皮膚科 2)東京医科大学皮膚科

79歳男性。右手首の潰瘍を主訴に紹介受診した。皮膚生検、真菌培養の結果、スポットリコーシスと診断。ヨウ化カリウムを3か月間内服し略治した。しかし、7か月後に同部位に腫瘍形成あり。皮膚生検、真菌培養にてスポットリコーシスの再発と診断した。

14. 糖尿病性壞疽切断足趾の爪白癬の真菌の形態と抗真菌薬の外用方法の検討

○出光俊郎¹⁾、竹下雅子¹⁾、高澤摩耶¹⁾、梅本尚可¹⁾、川瀬正昭¹⁾、山本直人²⁾、
蛭田昌弘³⁾、田中亨³⁾

1)自治医科大学附属さいたま医療センター皮膚科 2)同 形成外科 3)同 病理診断科

71歳、男。糖尿病性壞疽の切断趾を組織学的に検討。第IV趾爪はTDO型にて、爪甲中層に空隙と dermatophytoma が存在。第V趾爪はDSO型にて爪上皮から爪甲に連続性に真菌感染の近位型進展像も確認。外用抗真菌薬の使用法についても考察。

15. 口蓋および手指のDLEで発症、急速にSLEに移行し、侵襲性アスペルギルス症により死亡した1例

○出光俊郎¹⁾、山田朋子¹⁾、加倉井真樹¹⁾、矢部寛樹²⁾、菅原賛³⁾、野首光弘⁴⁾、
田中亨⁴⁾、神部芳則⁵⁾

1)自治医科大学附属さいたま医療センター皮膚科 2)同 リウマチ膠原病科
3)同 総合診療科 4)同 病理診断科 5)自治医科大学口腔外科

49歳、女。口蓋の白色角化と潰瘍。手指の疣状角化で受診、角化型DLEと診断。短期間にSLEに移行し、発熱、呼吸困難で入院。大量ステロイド、IVIG、血漿交換を施行するも侵襲性アスペルギルス症（気管支、肺、消化管）により死亡、剖検を施行した。

16. 顔面に小結節の集簇した *Exophiala spp.*による皮膚深在性真菌症

○出光俊郎¹⁾、藤井鷹矢¹⁾、高澤摩耶¹⁾、梅本尚可¹⁾、川瀬正昭¹⁾、酒井利育²⁾、
田中亨³⁾

1)自治医科大学附属さいたま医療センター皮膚科 2)同 臨床検査部
3)同 病理診断科

71歳、主婦。趣味は庭仕事。5年前、左頬に小結節を生じ Cordycipataceae 感染症と診断。ITZ内服、10週間で完治。今回は右頬部に小結節集簇。組織では真皮肉芽腫内に菌要素が多数存在。*Exophiala jeanselmei* を分離。

17. 伝染性膿痂疹に似た臨床症状を呈した顔面白癬の1例

○角谷廣幸¹⁾、角谷孝子¹⁾

1)酒田市 あいおい皮膚科クリニック

2歳4か月、女児。時々近所の2歳の飼い猫をなでていた。約3週間前に左頬部に帽針頭大の紅斑が2個生じ、徐々に増大。10日前より近くの皮膚科医院で伝染性膿痂疹として治療を受けていたが難治。KOH法で菌糸陽性。培養で菌は分離できず。抗真菌外用薬で著効。

18. 興味ある培養所見を呈した *Trichophyton mentagrophytes* による爪白癬の1例

○角谷廣幸¹⁾、角谷孝子¹⁾、安澤數史²⁾、望月隆²⁾

1)酒田市 あいおい皮膚科クリニック 2)金沢医科大学皮膚科

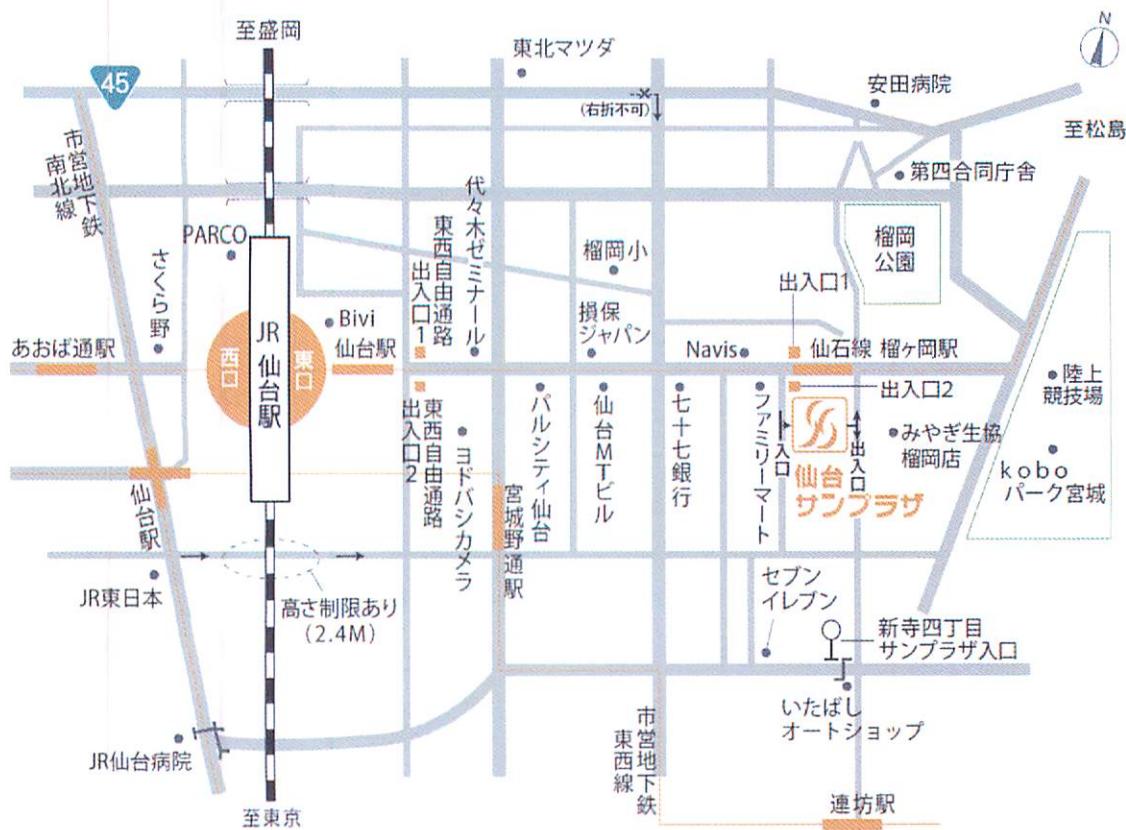
70歳、女。1年前より両足の母趾爪の一部に混濁。KOH法で菌要素不明瞭。培養で白色粉末状コロニー。スライドカルチャー所見はマイコセル培地で *T. rubrum* 様。サブロー・ブドウ糖寒天培地で *T. mentagrophytes* 様。ITS領域塩基配列で *T. interdigitale* と同定。

14:40~14:45

閉会挨拶

MEMO

学会会場周辺・交通のご案内



電車

- ・JR 仙石線仙台駅～（約3分）～榴ヶ岡駅下車出入口2すぐ <雨に濡れずご来館いただけます> （JR 仙台駅仙石線のりば9・10番線、松島海岸・石巻方面行[各駅停車]）

市営バス

- ・仙台駅～（約10分）～新寺四丁目サンプラザ入口下車徒歩5分 （JR 仙台駅西口バスブルール4番のりば、鶴巻小学校行き他）

お車

- ・仙台宮城I.Cより約30分
- ・仙台空港より約40分<駐車場120台完備>

徒歩

- ・JR 仙台駅東口より約13分
- ・地下鉄仙台駅より約23分

東北真菌懇話会

会長：出光俊郎（自治医科大学附属さいたま医療センター皮膚科）

事務局：さとう皮膚科クリニック

〒020-0114 盛岡市高松3-11-33 ☎019-665-2333 FAX 019-665-2331

E-mail: tmsato@rose.ocn.ne.jp